

ドキュメンタリー映画 監督: 澄川嘉彦

大きな家

～アマガサの森の子供たち～



わたしたち、大きな家にすんでいるんだね

東京から岩手の山奥に移りすんだ

子どもたちの森での日々



芸術文化振興基金助成事業

2009年/カラー16mm/107分

大きな家

〜タイマグラの森の子どもたち〜

わたしたち、
大きな家にすんでるんだね

東京から岩手の山奥に
移りすんだ子どもたちの
森での日々



「大きな家」

前作の記録映画「タイマグラばあちゃん」の撮影のために岩手県のほぼ真ん中、早池峰山のふもとに棲みつてから十年になります。「タイマグラ」と呼ばれるこの開拓地はアイヌの言葉で「森の奥へと続く道」という意味だと言われ、人里から遠く離れた森にブナやトチ、ミズナラといった巨木が立ちならんでいます。

東京から一緒にやって来た幼い子どもたちは、幼稚園もなくテレビも映らないというあまりの暮らしの変わりように、最初はまわりの山を見ながら大声をあげて泣きました。しかし、いつのまにかチョウをとることに夢中になり野山をかけまわって遊ぶようになります。

都会から来た4歳と2歳の子が出会う生々しい自然——身近な虫に始まり、池にやって来るカエルやサンショウウオ、春になると芽を

出す木の子ども、家の中に入りこんでくる野ネズミや迷子になった赤ちゃんウサギ——めまぐるしく続くいろいろな命との出会いの中である日、一番上の女の子がつぶやきました。「おとうさん、わたしたち“大きな家”にすんでるんだね。」

子どもたちにとって毎日走りまわっている森のすべてがさまざまな命あるものたちと一緒に暮らすひとつの“大きな家”だということです。山で暮らすということは、それまでほとんど触れあうこともなかった人間以外の“生きとし生けるもの”たちの存在を確かなものとして感じていくということでした。

わたしたちの生命はずっと昔から「つながってきた」ものですが、そのつながりをささえてくれているのは人間以外の生命たちです。“タイマグラばあちゃん”や子どもたちを見ると、まわりの生命たちと「つながる」ことの

出演…………… 澄川皓恵
太皓
立皓
早苗
井上祐治
語り…………… 小室等
撮影…………… 佐藤浩昭 太田信明 澄川嘉彦
音響構成…………… 永峯康弘
音楽…………… 横内丙午
題字…………… 丸山浩平
タイミング…………… 笠原征洋 横尾直樹
光学リレコ…………… 菅原博男
制作協力…………… ヒボ コミュニケーションズ
ヨコシネ D.I.A.
ソネットエンタテインメント
上映協力…………… いせフィルム クロスフィット
宣伝デザイン…………… 森岡寛貴 (ジオングラフィック)
協力…………… 小西晴子 横尾直樹
奥畑充幸 山代陽子 望月達也
プロデューサー…………… 菅原淳一
伊勢真一
製作…………… イメージラフト 杜の風
ハヤチネプロダクション
監督…………… 澄川嘉彦



芸術文化振興基金助成事業

楽しさや感謝の気持ちがあふれかえっているのです。

7年間にわたる撮影でカメラがとらえたのは“人間だけで生きているのではない”という忘れがちな事実でした。子どもたちは「人間とほかの生き物」というような区別はしません。“大きな家”の仲間たちは、一緒に今を生きている同じ「生き物どうし」なのです。

人間が強大な力を持つようになった現在、ほかの生きとし生けるものたちとどのようにささえあっていくことができるのか。

“大きな家”というのは、わたしたちが暮らすこの青い星のここのなかもれません。

澄川嘉彦(監督)

1963年 広島市生まれ。NHKディレクターを経て、2004年 映画「タイマグラばあちゃん」を発表。フライブルグ国際映画祭・最優秀ドキュメンタリー賞など、さまざまな海外映画祭で受賞する。

お問合せ いせFILM 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-28-5 宮崎ビル302 TEL.03-3406-9455 FAX.03-3406-9460

上映後、澄川監督のトークタイムを予定しております。

2009年 10月17日(土) エルパーク仙台 6F ギャラリーホール(地下鉄勾当台公園駅、141ビル)

①10:30(小さいお子様連れはこちらの回がお勧めです。) ②13:30(大人や小学生以上のお子様連れはこちらの回がお勧めです。)

全席自由 一般:前売り1,500円(当日1,800円) 小、中学生:500円(当日800円)

(上映時間 107分)主催:母の寺子屋(『大きな家』を観る会) 前売りチケット予約、販売店については <http://www.kuukuu.org/> をご覧下さい。

お問い合わせ:オールライト千葉美 info@kuukuu.org / 090-9393-3074